

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
臨床栄養学概論 Introduction to Clinical Nutrition		2年	通年	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
4単位	講義	選択	(選択必修(栄養士))	栄養士養成課程学生に限る
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
解剖学、生理学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
栄養士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
穂積 元	福祉棟2階	月曜から木曜午前 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
近年、社会環境、疾病構造等の変化により生活習慣病が問題になっている。本教科では解剖学や生理学の基礎知識を基に各病態を理解し、日常の医療現場でどのような治療や診断方法が行われているかを学習する。また、治療法、とりわけ食事療法について、病態を理解してその食事療法の有効性を(医学的根拠)を体系的に学ぶ。				
授業の目標				
①各疾患の病態がどのようになっているのか的確に説明できるようにする。それより各種療法の意義を考えることができるようにする。②疾患の病期や重症度の診断基準を習得し、どの段階からどの療法が中心となるのかを識別できるようにする。③各種栄養法の特徴を習得し、栄養サポートチームの役割などを説明することができるようにする。				
授業の方法				
講義形式で実施する。授業の最初に復習として関連科目の基礎知識について無作為に口頭試問を実施する。その後、教科書やOHPの提示で解説していく。				
学習の成果(学習成果)				
①各疾患、とりわけ生活習慣病の成因や重症度、診断基準などが理解でき、その病態にあった各種療法の有用性を説明することができる。また、そのことから栄養指導の客観的な判断の根拠を述べることができる。②各種栄養法とその特徴を説明することができる。また、現代社会において実施されている栄養サポートチームの役割や在宅栄養の実際を知ることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	講義ガイダンス(成績評価法、学習方法)			
第2回目	臨床栄養の概念と意義、新しい目的概念			
第3回目	医療におけるNST(栄養サポートチーム)の登場の背景、これからの栄養士に求められているもの			
第4回目	代謝性疾患1(糖尿病の病態、病型、診断基準)			
第5回目	代謝性疾患2(糖尿病の合併症)			
第6回目	代謝性疾患3(糖尿病の各病期と病態、食事療法の適応)			
第7回目	代謝性疾患4(糖尿病における薬物療法)			
第8回目	栄養アセスメントの概念とその方法、小テスト1(糖尿病から出題)			
第9回目	腎臓疾患1(慢性腎臓病の診断と治療、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群)			
第10回目	腎臓疾患2(各種病態と薬物療法)			
第11回目	腎臓疾患3(人工血液透析-血液透析、腹膜透析)			
第12回目	腎臓疾患4(各種病態と食事療法)			

第13回目	腎臓疾患5（透析食とその特徴）
第14回目	アレルギー疾患、小テスト2（腎臓疾患より出題）
第15回目	消化器疾患1（肝臓疾患－ウイルス性肝炎、肝硬変、肝がん、脂肪肝）
第16回目	消化器疾患2（胆嚢・胆道系疾患－胆石症、胆嚢炎、胆嚢がん、閉塞性黄疸）
第17回目	消化器疾患3（膵臓疾患－膵臓炎、膵臓がん）
第18回目	消化器疾患4（胃腸疾患－胃炎、胃がん、十二指腸潰瘍、クローン病、大腸がん）
第19回目	循環器疾患1（動脈硬化症、高血圧症）、小テスト4（消化器疾患より出題）
第20回目	循環器疾患2（心不全、冠動脈疾患、脳血管障害）
第21回目	血液疾患（貧血の分類、栄養性貧血）、小テスト5（循環器、血液疾患から出題）
第22回目	代謝性疾患6（脂肪代謝異常症1）
第23回目	代謝性疾患7（脂肪代謝異常症2）
第24回目	代謝性疾患8（タンパク代謝異常：痛風、カルシウム代謝異常：骨粗鬆症）
第25回目	代謝性疾患10（肥満、メタボリック症候群）
第26回目	内分泌疾患（甲状腺機能疾患）、小テスト6（代謝性疾患から出題）
第27回目	各種栄養法1（各種栄養法とその特徴）
第28回目	各種栄養法2（経管栄養法の現状）
第29回目	栄養評価とNSTの役割、小テスト7（各種栄養法から出題）
第30回目	講義のまとめと理解不足箇所の補足説明

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	最高評価は授業に集中し、必要なことはきちんとノートにとる。また、分かりにくい点があれば積極的に質問する。
レポート		
調査報告書		
小テスト	70%	7回の小テスト合計で、満点が70点とする。試験形式は自筆ノート持ち込みの記述式問題とする。
試験		
発表内容（態度含む）		
その他	10%	授業中に関連した基礎知識に関する口頭試問に対して、しっかり回答することができる。

教科書と参考図書

教科書：「新しい臨床栄養学」 後藤・瀧下 共著（南江堂） 参考資料は適時配布をする。

履修上の留意点・ルール

関連科目（解剖学・生理学等）の予習・復習をして受講すること。授業中の携帯電話の使用を厳禁とする。